

第一回目のアンケート調査の中間報告

2010年3月15日

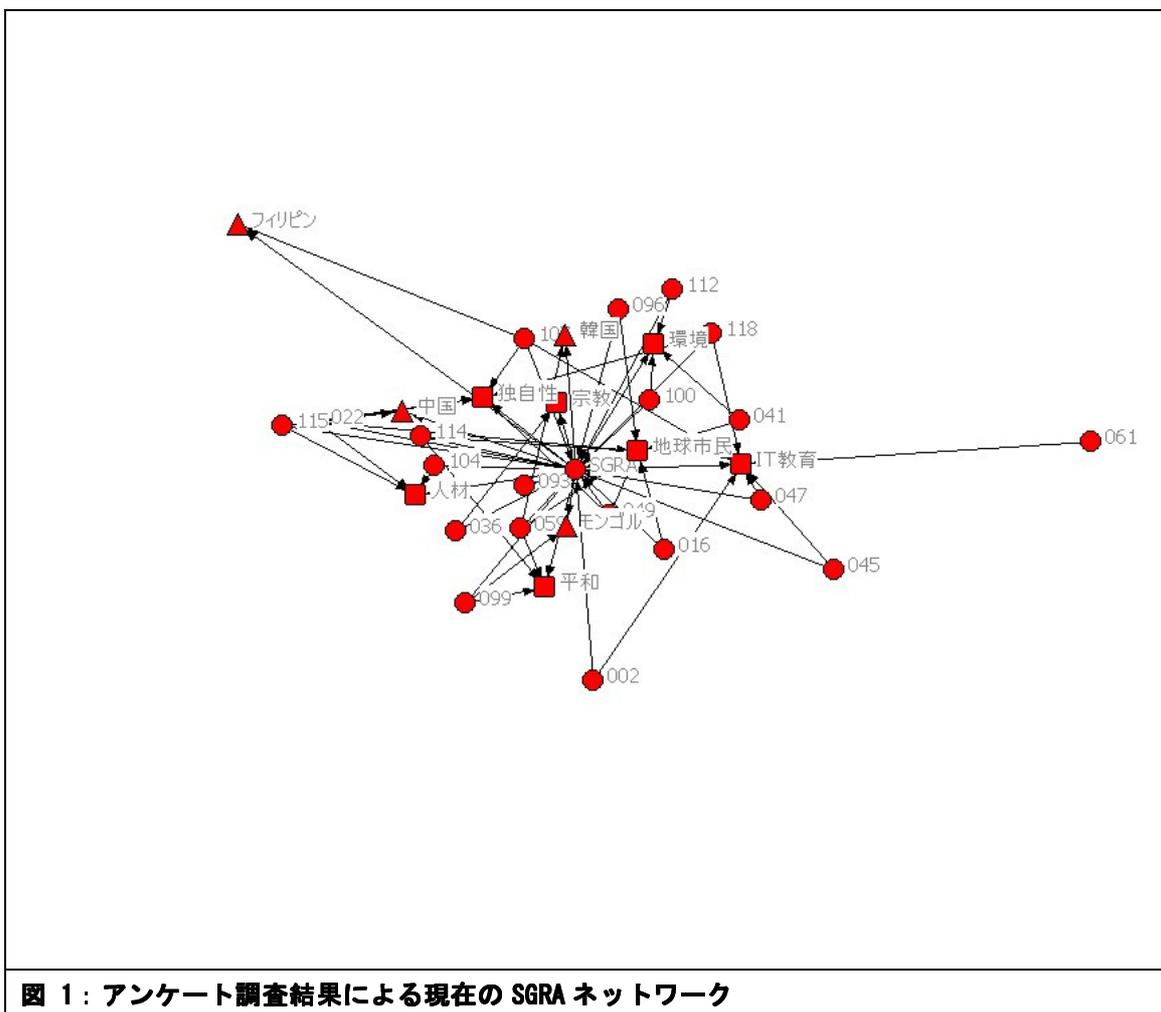
目次

1	アンケート調査の概要	1
2	アンケートの集計方法	1
3	アンケートの回答に基づいたネットワーク図	1
4	アンケートの回答中に記された具体的な提案	5
5	アンケート回答者にとって「SGRA ネットワークは何か」が読みとれる言葉	6
6	今後の SGRA の発展を検討する際に参考になるコミュニティー論	7

本文

- 1 アンケート調査の概要
 - 1.1 実施期間：2009年11月から1010年2月まで
 - 1.2 対象：渥美財団の元・現役奨学生
 - 1.3 実施方法
 - 1.3.1 実行委員がアンケートを作成
 - 1.3.2 アンケートをメールで発送
 - 1.3.3 今西代表が未回答者に督促メールを3回送付
 - 1.4 回答率
 - 1.4.1 発送数：175件（5名のメールアドレス不明）
 - 1.4.2 回答数：123件
 - 1.4.3 回答率：70%
- 2 アンケートの集計方法
 - 2.1 アンケート7つの質問のうち、下記の3つの質問への回答を中心に集計した。
 - 2.1.1 あなたが SGRA の活動に対して貢献できることは何ですか。（いくつでも書いてください）
 - 2.1.2 あなたが SGRA の活動から得たいことは何ですか。（いくつでも書いてください）
 - 2.1.3 他に渥美財団と SGRA のグローバル・コミュニティーについてコメントがありましたらご自由にお書きください。
 - 2.1.4
- 3 アンケートの回答に基づいたネットワーク図

- 3.1 社会ネットワーク分析用ソフトを利用して、アンケートの結果を照合しながら SGRA のネットワークを表すと図 1 のようになった。
- 3.1.1 この図は、7 つの研究チームに属する 20 名の研究員の回答結果を用いて作った現在の SGRA ネットワーク図である。
- 3.1.2 赤い○は回答者、□は 7 つの研究チーム (=研究テーマ)、△は現在 SGRA が活動している 4 つの海外拠点である。
- 3.1.3 相互の繋がりが多いほど中心に位置され、相互の繋がりが弱いほど周辺に位置される。



- 3.2 社会ネットワーク分析用ソフトを利用して、アンケートの結果を照合しながら SGRA のネットワークの可能性を表すと図 2 のようになった。
- 3.2.1 赤い現在のネットワーク図に、アンケートで「何らかの形で SGRA とかかわりたい」と回答した 98 名を青い○で加えた。(※4 人の回答においては、参加意思が明確ではなかった)

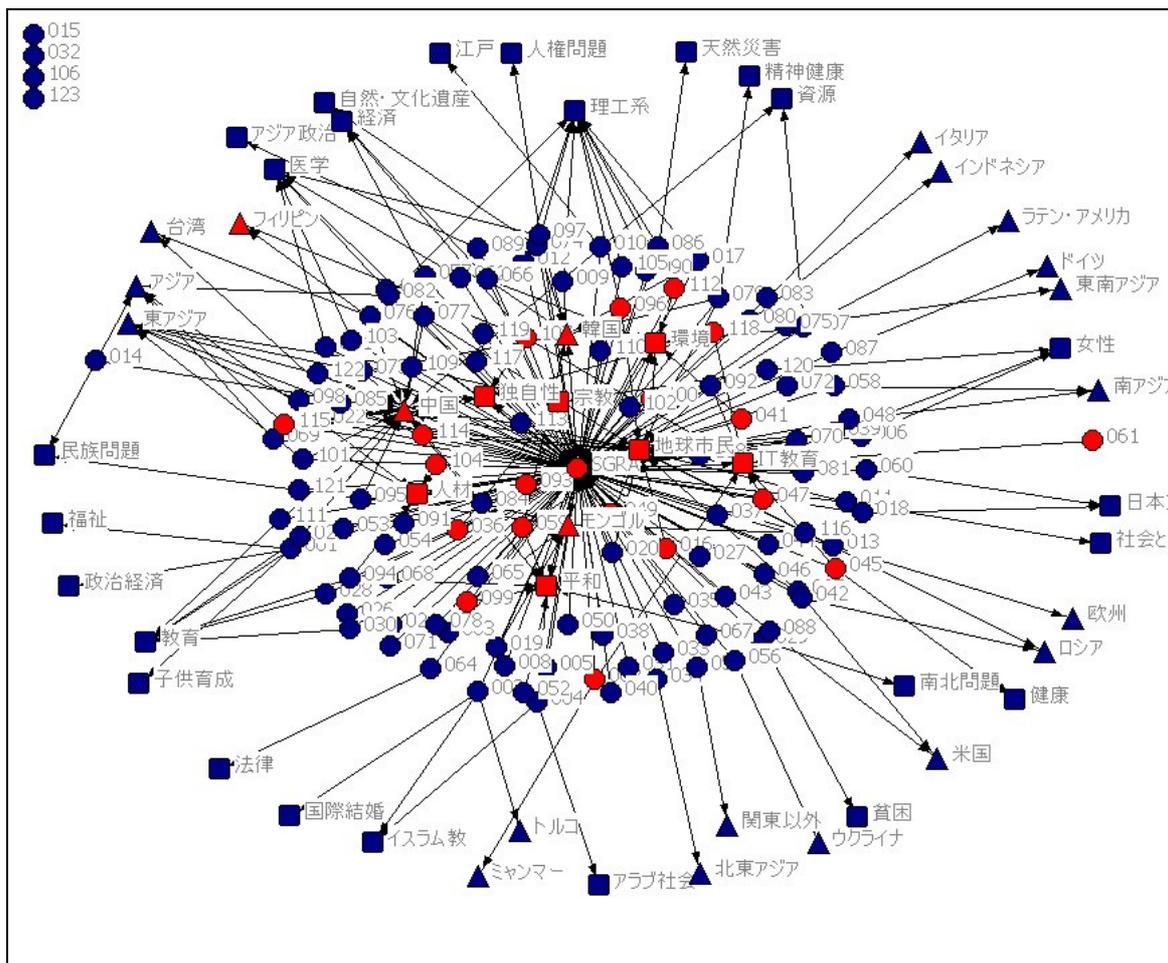


図 4：アンケート調査結果による実現可能な SGRA ネットワーク（+19 地域）

4 アンケートの回答中に記された具体的な提案

4.1 各自のネットワークを SGRA ネットワークと連結させる

（※今西代表のコメント：「実は、既に始まっている 4 つの海外拠点プロジェクトは、このようなネットワークの連結によるものであり、今後もさらにこの方式で活動拠点を増やしていきたいと思います」）

4.1.1 「私の研究所（アメリカ）に SGRA 研究員等を招聘し、グローバル・コミュニティーにおける日本の役割に関するフォーラムを開催しましょう。日本をベースとしたネットワークに属するオピニオン・リーダーや学者たちを結びましょう。」

4.1.2 「私の職場でも常に新しい研究企画案を考えなければならないし、財政基盤を確保するように努力しなければなりません。そうした状況の中で、時々 SGRA との共催プログラムが出来たらと思います。」

4.2 オンラインコミュニティーの維持発展（今西代表のコメント：「今後の検討課題です」）

4.2.1 かわらばんの継続

4.2.1.1 「SGRA のエッセイも読むのも、書くのもとても楽しいです。遠くに住んでいる人

の国の話を読んでとても面白く、その国を近くに感じることができます。」

4.2.1.2 「メールなどを送って頂いて、関心のある問題について皆さんのご意見を知らることがあります。」

4.2.1.3 「エッセイを書いている皆様へ。エッセイをいつも面白く拝読させていただいております。」

4.2.2 新たなオンライン・コミュニケーション装置の開発

4.2.2.1 「メルマガ、ウェブページや会議についてのオンライン会議に参加したい。」

4.2.2.2 「気楽にメッセージをアップできるようなグループのブログがあれば」

4.2.2.3 「国際課題や教育方法に関して議論できれば」

4.2.2.4 「会員名簿があれば」

4.2.2.5 「インターネット空間で活発なコミュニケーションや活動ができるプラットフォームを作ってほしい」

4.2.2.6 「Linkedinのようなソーシャルネットワークシステムはいかが？」

4.2.3 基礎情報を提供するブログを管理できると思う

4.3 出版の改善策

4.3.1 SGRA かわらばんの知名度の向上

4.3.2 地球市民ジャーナルの発行

4.3.3 SGRA レポートなどの効果の検証

4.3.4 出版事業

4.4 アドボカシー

4.4.1 問題解決

4.4.2 行動

4.4.3 直接的支援

4.4.4 もっともホットなトピック

4.4.5 啓蒙活動

4.4.6 実践的な効果

4.4.7 実用性

4 アンケート回答者にとって「SGRA ネットワークは何か」が読みとれる言葉

(今西代表のコメント：「これが SGRA ネットワークの原動力なのだと改めて確認できました」)

4.1 多分野

4.2 国際交流

4.3 マスコミで得られない情報

4.4 キャリアー・ビジネス情報

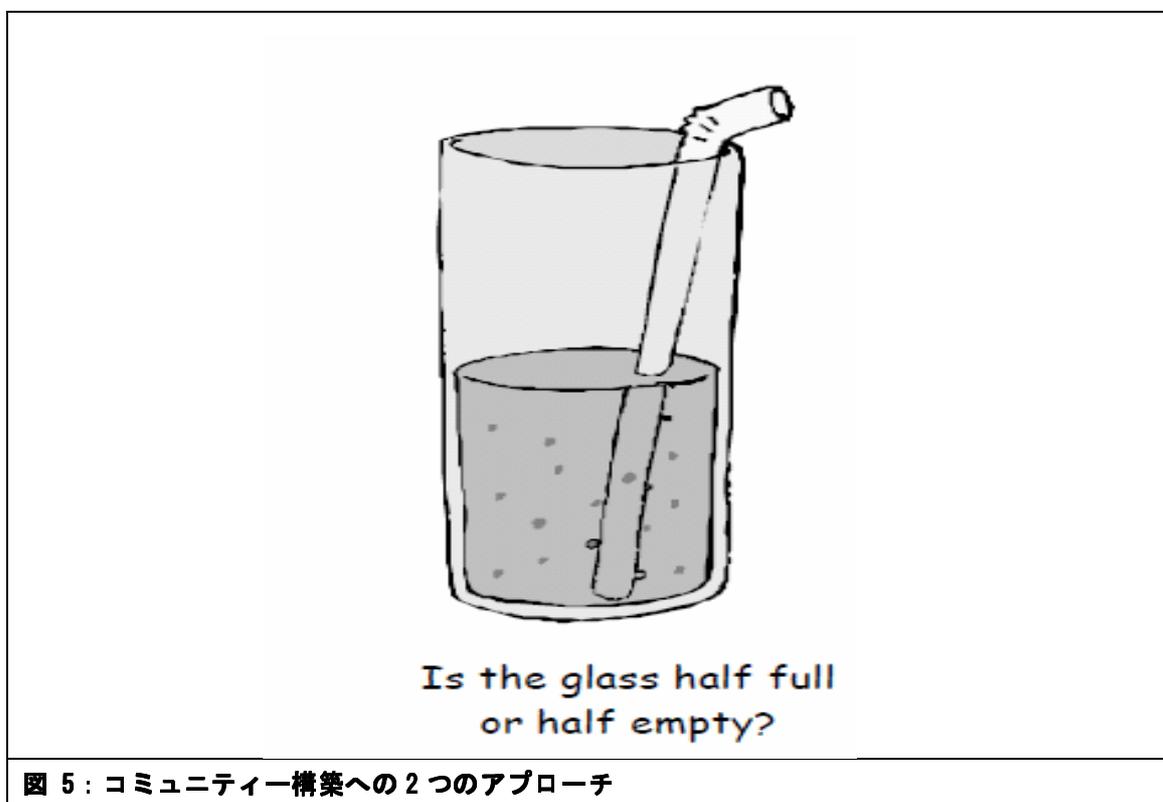
4.5 絆

4.6 友情

- 4.7 刺激
- 4.8 生き甲斐
- 4.9 人生の誇り
- 4.10 グローバル・コミュニティーの存在の実感
- 4.11 共同発展
- 4.12 夢実現のチャンス
- 4.13 信念

5 今後の SGRA の発展を検討する際に参考になるコミュニティー論

- 5.1 コミュニティー構築には2つのアプローチがある。
- 5.2 コップに水が半分しかはっていない、「半分は空」であるという見方と、水が半分もはいている、「半分は満たされている」という見方がある。



- 5.3 ネットワーク論にあてはめると、半分は空であるという見方は、中の繋がりが弱く、外部から援助しないとコミュニティーに活気がでない。
- 5.4 ところが、水が半分も満たされているという見方は、中のつながりが強くて活気があるけれども、周辺の資源が活かされていない。
- 5.5 SGRA の場合は、后者である。周辺にあるものこそコミュニティーの資源であると考え、今後は、さらにメンバーを増やし、新しいテーマや新しい海外拠点へ輪を広げていきたい。